**大宮橋・二宮橋・走井橋**

日吉大社と外界との南の境界は大宮川である。この川に架かる大宮橋、二宮橋、走井橋の3つの橋が、神域への入口となる歴史的な橋である。

いずれも当初は木造であったが、1669年に花崗岩製に改修された。花崗岩の橋は、木造の橋を忠実に再現している。1917年に3橋がそろって重要文化財に指定された。

**大宮橋**

長さ15.3メートル、幅6.7メートル

日吉大社の三橋のうち、最も大きく、最も精巧な橋。西本宮（旧称：大宮神社）の参道に架かっている。日吉大社の祭礼の多くで使用される。

**二宮橋**

長さ15.3メートル、幅5.7メートル

東本宮（旧二宮神社）の表参道に架かる橋。現在は4月の山王祭の時のみ使用される。

**走井橋**

長さ14.5メートル、幅4.6メートル

他の2つの橋とは異なり、手すりも装飾もないシンプルな橋である。大宮橋と平行して架かっており、神事や行事の際、境内に入る前にお祓いをするために利用される。橋の北詰にある「走井泉」がその名の由来である。山王祭の始めには、橋の近くの川で清めの儀式が行われる。